

東北NP研究会の軌跡と今後の展望

Tracks and Future prospects of Tohoku Nurse Practitioner Meeting

齋藤真人¹⁾・渡邊隆夫²⁾・津田丈秀²⁾・黒澤恵美子³⁾・中川恵子³⁾・佐竹雅史³⁾
石川ちさと¹⁾・沼上恭子¹⁾・坂田愛¹⁾・藤島佳菜子⁴⁾・小池さゆり⁵⁾・渥美真樹子⁶⁾

1) 公益財団法人仙台市医療センター 仙台オープン病院, 2) 東北文化学園大学, 3) 東北医科薬科大学病院
4) 一般財団法人厚生会 仙台厚生病院, 5) 仙台市立病院, 6) 日本赤十字社 石巻赤十字病院

はじめに

日本NP教育大学院協議会が実施するNP資格認定試験の合格者数は2018年3月31日の時点で359名であり、その数は増加を続けている。一方で、2018年12月の時点で認定看護師は19,894名、専門看護師は2,279名と両資格と比較をすると実数はもちろんのこと、実績や知名度・社会的地位が十分に確立されたとは言えない状況である。それ故に、各施設で活動をしていくうえで様々な問題や課題に直面した時に解決の方法や手順、先行事例が十分に蓄積されておらず、自ら考え、解決をせざるを得ない状況である。

日本NP学会北海道・東北ブロック東北NP研究会(以下、本会)は東北6県(以下、東北地域)の診療看護師(以下、NP)の活動を支援し、国内外におけるナースプラクティショナーの最新情報の提供や知識・技術の向上に取り組んでいる。発足からの3年間に総会を3回、定期勉強会を11回、ハンズオンセミナーを3回行ってきた。これらの取り組みを振り返り、今後の展望を述べる。

東北地域におけるNPの現状

東北地域におけるNPの養成は2011年4月から東北文化学園大学大学院で開始され、2013年4月から東北地域の各施設に修了生を輩出している。2018年4月現在、宮城県内を中心に28名のNPが在籍しており、心臓血管外科・救急科・消化器外科・耳鼻咽喉科・呼吸器内科・乳腺外科等の診療科や在宅医療、等のプライマリケア領域においても活動を行っている。修了生の努力により各施設でNPに対する理解や認知度は高まってきて

おり、NPとして第一線で活動する修了生も着実に増えてきた。しかし、一方で大学院修了後もNPとして十分な活動が行うことができず、一般的な看護業務を中心に業務を行い、能力を活かしきれていない修了生もいるのが現状である。また、東北文化学園大学大学院がある宮城県を中心に、山形県、福島県、岩手県にはNPが在籍しているが、青森県、秋田県には在籍しておらず、東北地域内でもNPの偏在化がみられている。

本会の設立

1. 目的

NPに関する情報交換や研究発表等の場を設け、東北地域におけるNPの社会の理解の促進を図ることを目的とする。

2. 組織

東北文化学園大学内に事務局を置き、東北地域に在籍するNPを構成員としている。

3. 運営方法

実際の運営は宮城県内に在籍するNPが中心に分担して行っている。

本会は、第1回日本NP学会学術集會に先駆け、2015年5月に本会は発足した。その後、日本NP学会が定める各ブロックに研究会が発足しており、本会は比較的早期に地域における研究会の活動を開始している。

本会の活動と成果

本会は2015年5月に発足と同時に第1回の総会を開

催し、その後2016年からは定期勉強会の開催や年1回のハンズオンセミナーを順次開催し、徐々にその活動内容を充実させている。さらに、東北地域におけるこれらの取り組みを東北文化学園大学のホームページやFacebookを活用して広く社会にむけて情報発信を行っている。

1. 本会総会

本会の総会は2018年12月現在までに3回開催しており、各会の特別講演には国内外でNPの活動や情報に精通している講師を招聘して講演を開催した。総会の演題数も回を追う毎に増加しており、第3回の総会からは抄録集の作成と業者による企業展示も開始した（表1）。

さらに、これらの取り組みを開催報告書として日本NP学会のホームページ上に掲載し公開している。

2. 定期勉強会

定期勉強会は2016年8月から2～3カ月毎に宮城県内外に在籍するNPが持ち回りで、各々の専門領域における貴重な経験や最新の知見、各施設での取り組み、等を講演している（表2）。公的な場で責任ある講演活動を行うことで自らの専門領域の知見が深まることはもちろんのこと、専門外の知見にも触れることでより一層自身の知識が広がり、さらに身近な施設での取り組みを知ることによって自施設での取り組みの参考となり、結果として東北地域全体としてよい刺激になると考えている。

表1 東北NP研究会総会のテーマと発表演題

名称	テーマ	演題名
第1回東北NP研究会	看護・医学の高度実践を目指して	東北薬科大学病院における取り組みについて 指定研修制度について 米国におけるNPの実践と日本における活用の検討 ～特定行為研修制度の開始にあたって～
第2回東北NP研究会	臨床・地域医療への成果を探る	仙台オープン病院におけるNPの取り組みについて 仙台医療センターにおけるNPの取り組みについて 臨床・地域医療におけるNPの貢献と展望～NP教育の視点から～ 特定行為研修制度の現況について
第3回東北NP研究会	“地域”を支える診療看護師（NP）を目指して	急性期病院における診療看護師（NP）の役割について 東北における効果的なNPの活用方法を考える 地域を支える診療看護師として “地域”を支えるナースプラクティショナーを目指して 仙台市の高齢者保健福祉施策について 訪問看護の現状と課題を事例から考える 日本におけるNPの来し方、現在、そして、これから

表2 東北NP勉強会の演題名

名称	演題名
第1回東北NP勉強会	蘇生ガイドライン2015 耳鼻咽喉科の救急疾患
第2回東北NP勉強会	創傷ケアの基礎 救命救急センターにおける外傷診療
第3回東北NP勉強会	心電図&心エコーから疾患を導く 診療看護師が行うPICC管理と挿入
第4回東北NP勉強会	NPWTの実際～心臓血管外科の場合～ 救急・集中治療領域の痛み・不穏・せん妄対策-JPADガイドラインを中心に- 胃静脈瘤破裂による高度貧血に対して緊急異型輸血を施行した1例
第5回東北NP勉強会	電解質異常の一例 事例に学ぶ～ICUでの急変を振り返る～
第6回東北NP勉強会	NPが病院外で働く～CareからCureへ～
第7回東北NP勉強会	成人教育技法 独立行政法人高崎総合医療センターでの診療看護師の活動内容
第8回東北NP勉強会	乳腺外科診療看護師の活動 心臓血管外科の特徴的な管理
第9回東北NP勉強会	仙台医療センター心臓血管外科での診療看護師の活動
第10回東北NP勉強会	胸痛の鑑別について
第11回東北NP勉強会	JCHO仙台病院における診療看護師の活動

定期勉強会のアンケート調査を単純集計した結果、アンケート回収率は76.7% (145人/189人) であり、「講師の話し方」、「講義の内容」、「講義時間」、「講義内容について理解できたか」、「実際に実践に活用できるか」の5項目すべてで平均点が8点を超過している (表3)。受講者からの意見として、「経験を共有することで今後に活かしていけると思う」、「とても分かりやすく明日から活かしていきたい」、「他施設、他の大学院の状況が分かり刺激になった」などの肯定的な意見が多く、定期勉強会に対する満足度は高いと考えられる。

3. ハンズオンセミナー

ハンズオンセミナーは経皮的心肺補助装置 (以下、

表3 東北NP研究会主催定期勉強会についてのアンケート結果 (n=145)

項目	平均値
講師の話し方	8.7
講義の内容	8.7
講義時間	8.3
講義内容について理解できたか	8.8
実際に実践に活用できるか	8.3

※各質問は0-10の範囲で評価

PCPS: percutaneous cardiopulmonary support), 大動脈内バルーンパンピング (以下, IABP: intraaortic balloon pumping), 創傷に対する陰圧閉鎖療法 (以下, NPWT: negative pressure wound therapy), 末梢留置型中心静脈注射用カテーテル (以下, PICC: peripherally inserted central catheter) 等の看護師特定行為に関連した実技を中心に受講者が実際の機器に触れながら, より臨床に近い環境で学べるように企業や東北文化学園大学などの関係者と協力しながら企画をしている (表4)。

2018年度東北NP研究会秋季セミナーでおこなった受講者アンケートを単純集計した結果, アンケート回収率は91.1% (164人/180人) であり, 「研修に参加して, どのようにお感じですか」, 「研修の内容は理解しやすかったですか」, 「研修で学んだことは, 実践に活用できると思いますか」, 「研修時間はどうでしたか」の4項目すべてで「たいへん満足」・「満足」が80%を超過している (図1)。受講者からの意見として「楽しく受講出来た」, 「他施設の方々とディスカッションが出来て楽しかった」, 「実際に体験することで理解が深まった」などの意見がみられ, 定期勉強会同様に受講者の満足度は高いと考えられた。

表4 東北NP研究会開催のハンズオンセミナー

名称	ワークショップ名
2016年度 東北NP研究会夏季セミナー	創傷管理ワークショップ
	循環器関連ハンズオンセミナー
	透析管理関連ハンズオンセミナー
	心嚢ドレーン管理関連
	ろう孔管理関連
2017年度 東北NP研究会夏季セミナー	術後疼痛管理関連
	創傷管理関連ハンズオンセミナー
	末梢挿入中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー
	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連
	エコー塾
	呼吸器関連
	腹腔ドレーン管理関連&創部ドレーン管理関連
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	
2018年度 東北NP研究会秋季セミナー	ペースメーカー管理
	救急対応
	末梢挿入中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー
	局所陰圧閉鎖療法 ハンズオンセミナー
	グラム染色 ハンズオンセミナー
	体外式膜型人工肺 シミュレーション

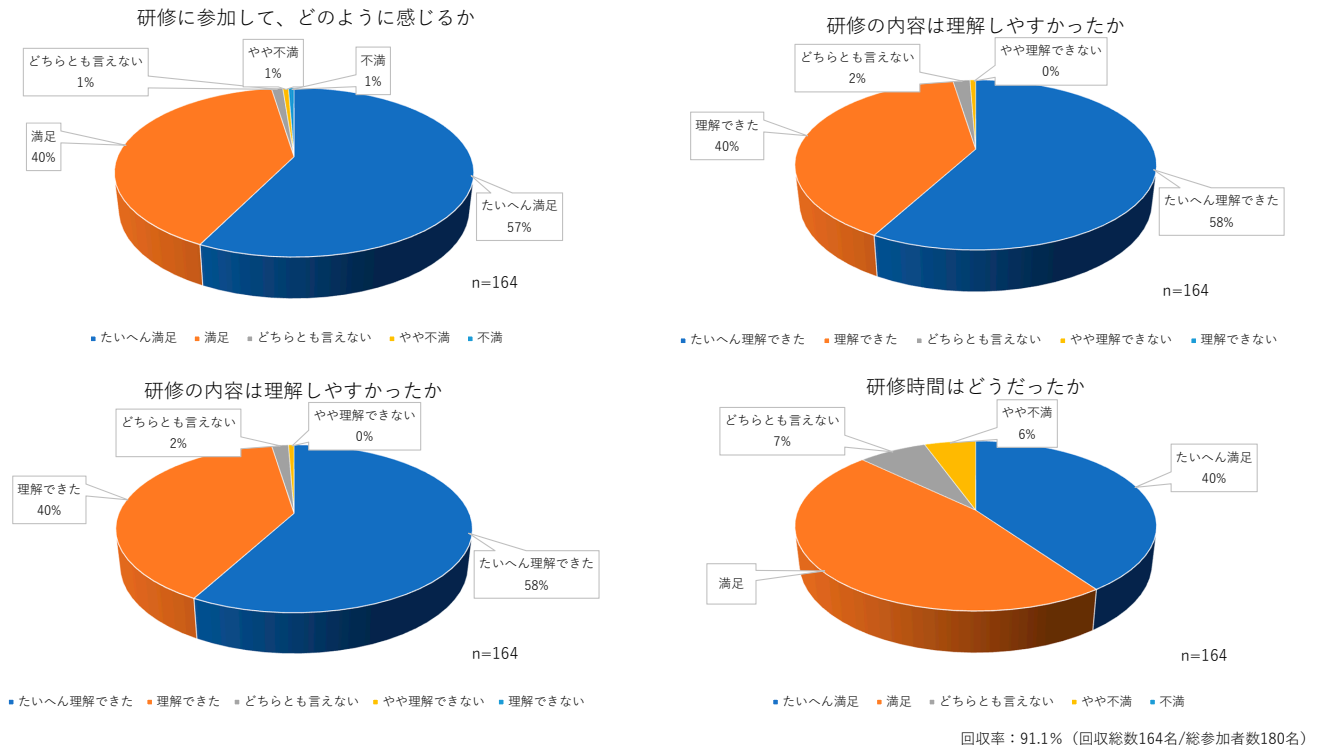


図1 2018年度東北NP研究会秋季セミナー アンケート結果

本会の企画には会員だけではなく、会員以外のNPやNPを目指す大学院生、その他NPに興味があるすべての人が参加できるようにしている。医師だけではなく、NPが講師として講義を行い、教育に携わることで自らの知識を深めると同時に参加者との知識の共有を行うことでお互いが学び合える双方向の関係性の構築と後進の育成にも取り組んでいる。

4. 広報活動

さらに、各企画の開催日程・情報は独自に作成しているメーリングリストで個人向けに発信している他、東北文化学園大学のホームページや本会のFacebookページ上でも一般向けに情報公開をしている。

今後の展望

2017年4月6日に厚生労働省が公開した「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会 報告書」¹⁾においてNP養成の必要性が明記され、それに引き続くように日本看護協会においても

「ナースプラクティショナー（仮称）制度検討委員会」が設置され、我が国においても着実にNPの必要性和関心が高まっている。しかし、残念ながらNPの明確な業務内容は規定されておらず、各施設で必要に応じて様々な役割を果たしているのが現状である²⁻⁴⁾。今後、東北地域を始めとして我が国にNPを浸透させていくには、現在第一線で活動するNPが各領域で実績を積み重ね、その有用性を社会に発信していく必要性がある。こうした活動を継続することで各施設からの信用を得て、社会の需要が高まれば、多くの施設で必然とNPの必要性が増してくると考えている。需要に応えるためには資格取得後にNP個人の能力の維持・向上は必須であり、まずは組織の中で存在価値を示すためにも既存の業務だけではなく様々な経験を積み、その中でNPの役割を見出し、所属組織の中で需要を生み出すことも重要である。本会発足からの3年で活動の場の広がりや周囲の認知度の高まりを実感している。1例として、筆者の施設においても、数年かけて様々な業務を経験した後に3人のNPがそれぞれ、心臓血管外科や麻酔科、救急科で活動を行う機会に恵まれた。宮城県内の他施設においても診療科で

活動を開始するNPが増えつつあり、徐々にではあるが、着実に本会の活動の成果が表れていると考えられる。

本会は大学院を修了し活動しているNPのoff the job trainingの場としての機能の他に発信する場としての役割を担っているため、経験年数や修了大学院の枠を超えて活発な意見交換が行われることを期待している。今後の課題として、NPやNPを目指す大学院生はもちろんのこと、NPに興味がある看護師や医師、病院管理者等、今まで以上に多くの人に参加して頂けるように関係者と連携を図り、広報活動に尽力すると同時に魅力ある企画を今後も考案していく必要がある。一つ一つの活動が我々の活動の裾野を広げる基盤となることを信じ、東北地域で活動するNPが自ら思い描く理想のNP像を実現できるように、これらの支援を継続していきたいと考えている。

その他

論文内容は、日本NP学会第4回学術集会で発表した。本論文に関する利益相反は存在しない。

引用文献

- 1) 厚生労働省ホームページ：新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会報告書 厚生労働省 (<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000160954.html>), 2017 (検索日2019年1月16日)
- 2) 松山伴子, 佐藤潤, 草間朋子：診療看護師の就労環境等の実態調査－診療看護師の所属部署に着目して－：看護科学研究15 (1). 7-14, 2017.
- 3) 藤原祥裕：周術期医療における診療看護師の役割：日外会誌118 (1). 74-79, 2017.
- 4) 田端実, 重富杏子：心臓血管外科における診療看護師導入の試み：日外会誌115 (6). 3448-351, 2014.